

「中国経済研究会」のお知らせ

2011年度第6回(通算第22回)の中国経済研究会を下記の内容で開催することになりました。今回は中国人民元問題に詳しい杜進教授に講演していただくことになっていますので、大勢の方のご参加をお待ちしております。

記

時 間: 2011年11月15日(火) 16:30-18:00

場 所: 京都大学吉田キャンパス・法経済学部東館・**地下1階みずほホール**

報告者: 杜 進 (ト シン) 拓殖大学国際学部教授

テーマ: 「人民元改革の『内』と『外』」

注: 本研究会は原則として授業期間中の毎月第3火曜日に行います。2011年度における開催(予定)日は以下の通りです。

前期: 4月19日(火)、5月17日(火)、6月21日(火)、7月19日(火)

後期: 10月18日(火)、**11月15日(火)**、**12月3日(土)**、1月17日(火)

(この件に関するお問い合わせは劉徳強(liu@econ.kyoto-u.ac.jp)までお願いします。なお、研究会終了後、有志による懇親会が予定されています。)

【講演要旨】

人民元の為替レートをめぐって米中間の対立が続いているが、遠くない将来人民元が世界の主要通貨に成長する、という予測が研究者の間に広がっている。この報告は、人民元為替問題と中国の経済成長との関係に注目し、人民元国際化の背景とそのプロセスを考察し、通貨改革と成長パターンの転換の関係を分析する。

【講師略歴】

1953年中国上海市に生まれ、1981年遼寧大学大学院経済学研究科修士課程卒業後、同大学経済学部の助手を務めた。1983年一橋大学大学院経済学研究科に入学し、1988年同研究科博士課程を修了し、学習院大学東洋文化研究所助手に就任した。その後、1991年に市立北九州大学産業社会研究所助教授、1997年東洋大学国際地域学部教授を務め、2001年より現職に就く。研究分野は開発経済学と国際経済学であり、中国の経済発展と日米中の経済関係に関心を持つ。著書には「毛沢東、鄧小平、そして江沢民」(共著)「現代中国の構造変動 2:経済」(共著)などがある。